

## 平成26年度入学式の学長式辞

石本 勝見

### はじめに

私は平成26年4月1日、学校法人加茂暁星学園新潟中央短期大学の学長に就任し、同年4月3日の入学式において、学長式辞を述べる機会を得た。

入学式での「学長式辞」は、新しく本学に入学した学生に対して、まず最初に、学長として何を学んでほしいのか、どのような人間を目指してほしいのか、などについて語りかける重要な意味があると思っている。

しかし、自分にも思い当たることであるが、新しく大学に入学して臨む入学式は、新入生にとって、この大学に入るために必要なことであって、ここで何かを学ぶ、というよりは、参加すること自体が大事である、ととらえてしまう学生が多いように思える。

したがって、その場面では緊張して聞いていたとしても、すぐに忘れてしまうのが常のように思われる。

こうした状況を踏まえてもなお、学長として入学式に臨み、これから本学で学ぶに際し、何が大事か、どのような力を身につけてほしいか、何を伝えたかったのかを記録に残しておくことは、多少意味があるのではないかと考え「資料」として投稿する次第です。

### 平成26年度入学式 式辞（原稿）

本日ここに、平成26年度新潟中央短期大学の入学式を行うにあたり、加茂市長小池清彦様、田上町長佐藤邦義様、並びに元本学学長長塚康弘様はじめ多数のご来賓の方々からご臨席をいただき、誠にありがとうございます。

さて、先ほど入学を許可されました新入生みなさん、入学おめでとう。

入学は勿論、嬉しいことではありますが、大事なことは、大学で何を学ぶか、どのようにして自分を磨くか、ということでもあります。

ご承知のように、本学は幼稚園や保育園等の保育者養成をその教育活動の中心にしています。

保育者として仕事をしていくためには、そのために必要な専門的な知識や技能を学

ぶことはもとより大事であります。

それと同時に、非常に大事なことは、その専門性を支えている、人間としての、コミュニティーで他者と共に生きていくものとしての教養、マナー、態度を培うことだと思います。

様々な人たちと一緒に働き、生活していくための、いわば常識、コモンセンスが専門性の基礎として非常に大事になってきます。

どうか、資格を取るため、だけの学びではなく、広く、深く自分を磨き、地域の皆さんから認められるような人間になってほしいと思っています。

そのためには、自分の周りにいる人たち、友人、先輩、教員、事務の職員、あるいは実習先で会う子どもたち、指導して下さる幼稚園保育園の先生方、さらには日常生活で会う地域のみなさんなど、人とのかかわり、やりとりの中で、しっかりと心を開き、聴くこと、見ること、考えること、そして自分の思いを伝えること、こうしたやりとりの積み重ねの中で「社会で生きていく力」「社会を生き抜く力」が身についていくものと確信しています。

本学は規模の小さい短期大学ですが、しかし、理論面でも、実践的な面においても、優れた教員がそろっていると思っています。

丁寧に、親身になって皆さんを支え、一緒に学んでいこう、と思っていますので、皆さんも、人生において、非常に大事な、この青年期の2年間を充実した時間にしてください。

最後になりましたが、ご家族の皆様、本日はおめでとうございます。また、ご多忙のところご出席いただきましてまことにありがとうございます。今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成26年4月3日

新潟中央短期大学学長 石 本 勝 見